

# 発起人からの皆様へのメッセージ

社会モデルでの精神保健サービスを構築する

全国オルタナティブ協議会 中川聡

## イタリアの精神保健改革に学ぶー精神疾患はその人の人生の危機（クライシス）という考え

イタリアの精神科医は、病院・施設で自分たちの行ってきた治療の悲惨さを自覚し、自分たちは無力であることを知りました。そこから患者主体の考えが生まれ、脱施設化が始まったのです。有名なバザーリア法の成立ののち30年紆余曲折を経て精神科病院の廃絶に成功したのです。現在では、精神科病院の代わりに全国に精神科病院に代わる地域精神保健センターが置かれました。地域精神保健センターは、市内の中央部に置かれています。それはかつての精神科病院が隔離することを目的として人里離れた郊外に建てられていたのに対し、誰もがすぐにアクセスできるように（当事者自らがアクセス）市内の便利なところに開設されているのです。イタリアの精神科医は、病院で患者を待っているのではなく、自ら地域に出向いて地域社会の中で活動しているのです。



救急のベッドは全国で5000床程用意されていますが、法律で24時間以内に出さなければならないと決められています。地域精神保健センターでは、隔離も拘束もされず、24時間体制のサポートが行われます。治療においては、薬物治療は最小限に制限されます。例外を除き、服薬が強要されることはありません。そこに流れる基本哲学は、精神疾患は脳の病気ではなく、その人の人生の危機（クライシス）であるという考えです。如何に主体性を取り戻し、責任を取れるようにする方向にサポートされるのです。イタリアでは、福祉予算の財源不足もあり、当事者による労働組合が大きく発展しました。当事者自らが経営主体となる取り組みです。

## 欧米の当事者運動に学ぶ

欧米の当事者運動は、各国の脱施設化（精神科病院のベッド削減）の流れと共に生まれ育ってきました。それまで、施設に閉じ込められてきた患者が、地域で生き生きと生きていける一人の人間として開放されてきた流れです。そこでは、自己決定の原則が徹底され、同時に責任を持つことを学ぶプロセスが重視されます。それらは、～してあげる的な支援ではありません。画一的な治療を受けることでも、福祉が用意したプログラムに押し込めることでもありません。

各国とも、形は多少違えども、当事者運動は、反医学モデルとして発展して来ました。実際に快復を成し遂げた当事者が中心となって、様々なリカバリーモデルが考案され、実施されてきました。これらは、地域精神保健サービスの中核モデルとされています。

その流れに沿って発展したのが、既存の医療・福祉に代わるオルタナティブです。ピアサポートを中心に置いたこのサービスは、当事者同士のセルフヘルプグループとして様々な形で実現されていきました。グループホームや居場所サロン、就労支援、労働組合、クラブハウス、ソーシャルフ

アーム、急性期のクライシスセンターなどが次々と作られ、当事者はそこで主役として生きることが可能となったのです。

## 我が国の現状

---

各国が脱施設化を進める一方、わが国では、ベッド数の削減は一向に進みませんでした。当事者運動が社会的な認知を受けるほど広がっていません。欧米のリカバリーモデルは、主に精神科医によって紹介輸入されました。そのため、脱施設化でも脱医学モデルでもないいいびつなりカバリーモデルが使用されています。具体的には、医師を中心とする階層モデルが温存され、権力は医師に集中しており、本来治療を受けるか否か、服薬をするしないの決定権が当事者に無いというおかしなことが起きているのです。

さらに、隔離、拘束や電気ショック治療を受ける患者は増加し、見かけのベッド削減はあるが、実は入退院のサイクルを早めただけというおぞましい事態が起きています。常識外れの薬物治療が横行し、見せかけだけの精神科デイケアや就労支援施設が乱立し、患者は自宅と福祉施設と病院（入院）を繰り返すようになったのです。かつて、医師会会長の武見太郎は、精神医療を牧畜業と称しましたが、現在は脱施設化どころか、病院のシステムを地域に広げただけの街角牧畜ビジネスというべき、巨大な利権産業が出来上がってしまいました。

オルタナティブは、現在の保健、医療、福祉に代わる試みです。カナダのケベック州では精神保健関連の団体の4割がオルタナティブ団体です。オルタナティブとは、障害を非病理的な視点でとらえた、当事者を中心にした、セルフヘルプグループです。残念ながら、わが国では、公的資金の援助は、医師の診断書を必要とする医学モデルに偏っているのです。我が国のメンタルヘルス予算は9割以上が医療に分配されています。また各国の精神保健改革は、市民運動が先導しましたが、わが国にはそうした市民運動が育っていません。

## 治療より快復を目指す

---

うつ病にしても、統合失調症も、転帰の悪い病気ではありませんでした。転帰が悪くなったのはこれほどの薬物治療が蔓延してからです。この非常識な投薬が行われている限り、快復することはありません。オルタナティブ協議会では、本人の希望に沿った形での、減薬サポートから社会復帰までをサポートするコミュニティ、社会資源の提供を目論んでいます。オルタナティブの提供する治療的コミュニティは、その人の快復を信じ、力強く支えます。本人の自己覚知が進み、自主性が育まれ、エンパワメントされると、不快な症状も徐々に消えていきます。我々は、病気ではなく、その人の人生の問題に取り組みたいのです。